

未来を担う子どもたちの可能性を広げる取り組み「信楽中・中学生カンパニー」を取材しました。活動された生徒にお話を伺いました。

Q1 これまで活動してきた感想は？

Q2 芸術祭ではどのようなことを期待しますか？



▲商品開発について意見交換をする生徒の皆さん



▲子どもたちの未来の可能性を見守る福山淳さん

生徒の指導役を務めた企画リーダー 福山淳さんにお話を伺いました。

2年 洞磨利愛さん
大人と子どもが協力して、つくり上げていくことは、それぞれの視点から考え、新しい発見や良い案があり、とても良い活動だと感じました。

「信楽中・中学生カンパニー」は、地元の信楽焼を少しでも知ってもらいたいとの思いで始めました。信楽焼を販売するには、デザイン、制作、販売とお客様との取引があります。そうした関わりを架空の会社を通じて実際に体験することでさまざまな可能性を生徒たちに見つけてもらうことが目的です。

2年 谷井 菜菜さん
A1 初めて自分たちで商品を考えて作ったので、おもしろかったです。
A2 また、普段あまり関わらない学年の人たちと一緒に活動できたことも楽しかったです。

私自身、中学生と接する機会もなく最初はすごく不安でした。実際に生徒と接してみると、皆さんすごく人懐っこく、話をしてもしっかりと答えてくれる生徒ばかりで、お互いの距離を縮めるのはそれほど時間はかかりませんでした。カンパニーでは生徒にできる限り好きなことを自由にやってほし

いと考えました。思ったとおり進めてもらう方が生徒の個性をいかせ、こちらも見守るだけの良い距離感を保つことができました。作品、ポスターなどの制作を進めていくうち、次第に生徒たちも絵が好きで生徒はデザインを担当するなど自分の個性を出してくれ楽しく取り組んでいる生徒たちがいきいきと活動している姿を見ることができました。

緊急事態宣言が滋賀県に出されたときには、芸術祭そのものがどうなるのかと不安になりましたが、逆にできることをやらないといけないという思いを新たにしました。今までしてきたことを無駄にはしたくない。生徒たちのこれまでの頑張りを何とか形にしたい。そんな気持ちの中で試行錯誤し、WEBやオンラインなどを活用した新たな挑戦を模索しました。

こうした苦しい状況は実際の社会ではあることですし、生徒にとっては良い勉強になるのではないかと前向きな気持ちに切り替えました。」

PART 1

アール・ブリュット×多様性



自身もつ感性のままに制作された“生の芸術”といわれる作品の数々を市内に展示します。



ストリートピアノ制作

廃校後、使用されなくなった旧結河小学校のピアノにアートを施した作品を展示します。

- 設置期間** 10月下旬～
- アート担当** やまなみ工房利用者様
- 設置場所** 信楽産業展示館 他

レンタルアート

市内の企業や事業所などに協力をいただき、アール・ブリュット作品に触れていただけます。

- 期間** 2021年10月～2022年1月末
- 会場** 市内の企業及び事業所(約60か所)
- 内容** やまなみ工房アーティストによる絵画作品の展示

無限の可能性と認め合う多様性

今回の「中学生カンパニー」で取材した福山さんの言葉にあるように「困難な状況であってもできることをやる」と生徒たちも厳しい状況であればこそ新たな発想や、可能性について気づく良い経験になったのではないだろうか。東京2020パラリンピックでは、さまざまな障がい乗り越えた選手が世界を舞台に活躍する姿に無限の「可能性」と夢や希望、そして大きな感動をもらいました。

また、認め合う「多様性」について考える大会となりました。本市では、あらゆる分野において障がいの有無によって分け隔てられることなく、人格と個性を尊重しあう「共生社会」の実現をめざしています。コロナ禍による大きな転換期中、個々の可能性や多様な価値観を認め合うなど『新しい豊かさ』について芸術を通して考える機会にしましょう。